

3 事業概要

3.1 環境情報部環境活動推進課

3.1.1 企画調整業務

調査研究の企画調整、研究成果の公表及び環境全般についての普及啓発に関する業務を行った。

(1) 調査研究業務の企画調整

令和元年度に終了した調査研究課題について、研究結果説明会を実施した。

また、令和3年度の調査研究課題について、調査研究計画説明会において内部評価を、また調査研究推進委員会による外部評価を行った。

事業名又は項目	概要
ア 結果報告	R1年度調査研究結果報告会をR2. 5. 26(火)に開催した。
イ 中間報告	R2年度調査研究中間報告会をR2. 10. 30(金)に開催した。
ウ 課題の調整	R3年度の調査研究課題の設定を行った。
エ 内部評価	R3年度調査研究計画説明会をR3. 2. 4 (木) に開催し、評価を行った。
オ 外部評価	R3年度調査研究課題について、学識経験者4名で構成する調査研究推進委員会(委員長 桜美林大リベラルアーツ学群片谷教孝教授)をR3. 2. 25 (木) に開催し、計画外部評価を行った。 <評価対象> ① 相模湾沿岸域におけるマイクロプラスチック汚染の実態解明(プロジェクト研究) ② 走査型電子顕微鏡を用いたPM2. 5の実態把握(地域課題研究) ③ 環境DNAを用いた丹沢山地におけるサンショウウオの分布調査手法の開発(地域課題研究)

(2) 研究成果の公表

調査研究成果を広く紹介するため、業績発表会及び環境研究合同発表会を開催するとともに、研究報告の発行、学会等への発表を行った。

※ゴシック表記の氏名は、当センター職員であることを示す。

事業名又は項目	概要
ア 環境研究合同発表会	当センターと横浜市環境科学研究所及び川崎市環境総合研究所で構成する「神奈川県環境研究機関協議会」の主催により、R3. 1. 27 (水) にオンラインにて、「第44回環境研究合同発表会」を開催した。参加者35人 <当センターの演題> 引地川流域における用途地域間のプラスチック片堆積状況の比較(三島聡子【調査研究部】)
イ 業績発表会	R3. 2. 17 (水) からR3. 3. 18(木)まで、ウェブサイトにおける紹介動画及び資料掲載として、「環境科学センター業績発表会」を開催した。HP閲覧数336回 <演題> ① 指標種に着目した環境DNAの基礎研究(長谷部勇太【調査研究部】) ② 一般参加によるマイクロプラスチック分布調査(難波あゆみ【調査研究部】) ③ 大涌谷自然研究路内の火山ガス連続測定データの解析(代田寧【調査研究部】)
ウ 研究報告の発行	「令和2年版(2020)神奈川県環境科学センター研究報告 第43号」をR3. 1に当センターウェブサイトに掲載した。

事業名又は項目	概要
	<p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ①環境科学センター 30 年を迎えるにあたり ～公害センター誕生前夜のこと（加藤洋【環境科学センター】） ②プラスチックごみのリサイクルと処理・処分方法の変遷（坂本広美【調査研究部】） ③相模湾漂着マイクロプラスチックに吸着した PCB の実態及び発生源の推定（小澤憲司、三島聡子【調査研究部】） ④指標種に着目した環境 DNA の基礎研究（長谷部勇太【調査研究部】、白子智康【いであ株式会社】） ⑤厚木海軍飛行場周辺地域における航空機騒音の推移（西野健太郎、横島潤紀【環境情報部】、筒井洋介【大気水質課】） ⑥大気及び降下物中のネオニコチノイド系農薬の分析法の検討（中山駿一、三島聡子【調査研究部】） ⑦大涌谷自然研究路内の火山ガス濃度（2018～2019 年）（代田寧【調査研究部】、十河孝夫【温泉地学研究所】）
エ 学会等への発表	調査研究成果について、論文等の発表（表3.1.1-1、表3.1.1-2）を行った。
オ その他	<p>調査研究その他の業績により、職員が令和2年度中に受けた表彰</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R2. 11. 16(月)「神奈川県環境農政局長表彰」（工場・事業場情報管理システム更新チーム【環境情報部】） ・R2. 11. 16(月)「神奈川県環境農政局長表彰」（環境科学センター研究環境整備チーム【調査研究部】、【管理課】） ・R2. 11. 16(月)「神奈川県環境農政局長表彰」（石割隼人【調査研究部】） ・R2. 11. 16(月)「神奈川県環境農政局長表彰」（新型コロナウイルス感染症を踏まえた廃棄物適正処理推進チーム【調査研究部】） ・R3. 1. 29(金)「全国環境研協議会関東甲信静支部長表彰」（加藤陽一【環境情報部】） ・R3. 2. 1(月)「全国環境研協議会会長賞」（坂本広美【調査研究部】） ・R3. 3. 17(水)「神奈川県環境農政局長表彰」（環境科学センターRE100電力導入チーム【管理課】） ・R3. 3. 17(水)「神奈川県環境農政局長表彰」（気候変動に関する教育プログラム作成チーム【環境情報部】） ・R3. 3. 17(水)「神奈川県環境農政局長表彰」（異臭問題対策チーム【調査研究部】） ・R3. 3. 17(水)「神奈川県環境農政局長表彰」（石綿飛散防止規制強化対策チーム【調査研究部】）

表 3.1.1-1 論文等発表 (* : 査読付き論文)

著 者【所属】	題 目	学会誌等名称
坂本広美【調査研究部】	マイクロプラスチックに関する基礎知識	資源循環かながわさきゆれーしょん、13号、23-24 (環境科学センターだより) (2020)
板橋秀一【電力中央研究所】、山地一代【神戸大】、茶谷聡、北山響、森野悠、永島達也【国立環境研究所】、斎藤正彦【愛媛大】、滝川雅之【海洋開発研究機構】、森川多津子【日本自動車研究所】、神田勲【日本気象(株)】、宮由可子【日本気象協会】、小松宏昭【調査研究部】、櫻井達也【明星大】、嶋寺光、浦西克維【大阪大】、藤原譲、橋本知明【(株)数理計画】、速水洋【早稲田大】*	Model Performance Differences in Fine-Mode Nitrate Aerosol during Wintertime over Japan in the J-STREAM Model Inter-Comparison Study	Atmosphere、11(5)、511(2020)
森原崇【石川高専】、横島潤紀【環境情報部】、松本泰尚【埼玉大】*	Experimental study on combined effect of Shinkansen railway noise and vibration on daily activities: A case of reading and calculation tasks	Acoustical Science and Technology、41(3)、607-613 (2020)
森長誠【防衛基盤整備協会】、グエンツラン【島根大】、下山晃司【航空環境研究センター】、横島潤紀【環境情報部】、矢野隆【熊本大】*	Effects of step change in aircraft noise exposure on activity disturbances: Socio-acoustic surveys around Hanoi Noi Bai International Airport	Acoustical Science and Technology、41(3)、590-597 (2020)
坂本広美【調査研究部】	相模湾沿岸に漂着するマイクロプラスチックの調査結果	資源循環かながわさきゆれーしょん、14号、24-25 (環境科学センターだより) (2020)
加藤洋【環境科学センター】	神奈川県におけるマイクロプラスチック調査	ビオトープ、No. 46、2-5 (2020)
加藤洋【環境科学センター】	コロナの時代と新たな課題への対応	全国環境研会誌、45(3)、4 (2020)
難波あゆみ、三島聡子、五十嵐恵美子、小松明弘、坂本広美【調査研究部】	相模湾沿岸における一般参加によるマイクロプラスチック分布調査	全国環境研会誌、45(3)、65-71 (2020)
坂本広美【調査研究部】	県内河川を流下するマイクロプラスチックの調査結果	資源循環かながわさきゆれーしょん、15号、18-19 (環境科学センターだより) (2020)
横島潤紀【環境情報部】	音響学初心者の研究キャリアパス	日本音響学会誌、77(1)、62-63 (2020)

著 者【所属】	題 目	学会誌等名称
坂本広美【調査研究部】	県民参加型の漂着マイクロプラスチック調査結果	資源循環かながわさきゅれーしょん、16号、15-16（環境科学センターだより）（2021）
鈴木茂【中部大】、長谷川敦子【調査研究部】、上堀美知子【中部大】、四ノ宮美保【埼玉県立大】、吉田寧子【株住化分析センター】、大窪かおり【佐賀県衛生薬業センター】、滝埜昌彦【アジレント・テクノロジー(株)】、長谷川瞳【名古屋市環境科学調査センター】、高沢麻里【中部大・土木研究所】、竹峰秀祐【埼玉県環境科学国際センター】*	Non-target environmental analysis by liquid chromatography/high-resolution mass spectrometry with a product ion and neutral loss database	Journal of Mass Spectrometry、Volume 56、Issue2(e4695)（2021）
横島潤紀【環境情報部】、森長誠【防衛基盤整備協会】	欧州地域向け環境騒音ガイドライン(2018)の解説	日本音響学会誌、77(2)、135-142
小澤憲司、三島聡子【調査研究部】	相模湾漂着マイクロプラスチックに吸着したPCBの実態調査及び発生源別のリスク推定	全国環境研会誌、46(1)、13-20（2021）
横島潤紀【環境情報部】	日本産業規格JIS Z 8731「環境騒音の測定・表示」の改正について	環境と測定技術、48(3)、17-21(2021)
萬年一剛、安部祐希【温泉地学研究所】、代田寧【調査研究部】、道家涼介、原田昌武、菊川城司【温泉地学研究所】、本間直樹【気象庁】、宮下雄次、行竹洋平【温泉地学研究所】*	Volcanic unrest at Hakone volcano after the 2015 phreatic eruption: reactivation of a ruptured hydrothermal system?	Earth, Planets and Space、73:80、(2021)

表 3.1.1-2 口頭発表（*：ポスター発表）

発表者・連名者【所属】	発表テーマ	学会名・発表年月 (開催場所)
馬屋原博光【リオン】、横島潤紀【環境情報部】、石田理永【石田振動環境研究室】、大石力【環境調査設計】、白石英孝【埼玉県】、西村昌也【ジェイアール東海コンサルタンツ】、平尾善裕【小林理研】	振動測定マニュアルの改訂	日本騒音制御工学会春季研究発表会 R2.4（豊洲シビックセンターホール※誌上開催）
松本泰尚、池田佑希奈【埼玉大】、土屋亜美、森原崇【石川高専】、横島潤紀【環境情報部】、林健太郎【ベネック振動音響研究所】	鉛直-水平 2 軸交通振動に対する人の心理的反応に関する基礎的検討	日本騒音制御工学会春季研究発表会 R2.4（豊洲シビックセンターホール※誌上開催）
来栖可奈、島瑞帆、日置尚之【日大】、長谷部勇太【調査研究部】、増田絢、松本淳【日大】*	Myxobolus nagaraensis infection in freshwater gobies Rhinogobius spp. from rivers in Kanagawa Prefecture, Japan	第 89 回日本寄生虫学会大会 R2.5（とまちプラザ※誌上開催）

発表者・連名者【所属】	発表テーマ	学会名・発表年月 (開催場所)
横島潤紀 【環境情報部】、森長誠【防衛基盤整備協会】、松本泰尚【埼玉大】	Causal analysis of complaint behaviors due to environmental noises	Internoise2020 R2.8 (ソウル※誌上開催)
森長誠【防衛基盤整備協会】、 横島潤紀 【環境情報部】、牧野康一、小林知尋、横山栄【小林理学研究所】	A laboratory investigation into the oppressive or vibratory feeling to low-frequency pure-tone	Internoise2020 R2.8 (ソウル※誌上開催)
三島聡子 、小澤憲司、中山駿一、 菊池宏海 、 難波あゆみ 【調査研究部】、片岡智哉、二瓶泰雄【東京理科大】	引地川流域における用途地域間のマイクロプラスチック堆積状況の比較	第23回日本水環境学会シンポジウム R2.9 (宮崎大※オンライン開催)
石割隼人 、 武田麻由子 【調査研究部】	PM2.5中の微生物を走査型電子顕微鏡で観察してみた	第61回大気環境学会年会 R2.9 (キッセイ文化ホール・松本市総合体育館※誌上開催)
松本泰尚【埼玉大】、森原崇【石川高専】、 横島潤紀 【環境情報部】、林健太郎【ベネック振動音響研究所】	鉛直-水平2軸交通振動に対する心理的応答評価に関する一検討	日本建築学会大会 R2.09 (誌上開催)
代田寧 【調査研究部】、大場武【東海大】、谷口無我【気象研究所】、十河孝夫、原田昌武【温泉地学研究所】	箱根火山における噴気組成(CO ₂ /H ₂ S比)変化速度と火山活動強度の関係	日本火山学会 R2.10 (※オンライン開催)
横島潤紀 【環境情報部】、森長誠【防衛基盤整備協会】、下山晃司【航空環境研究センター】、森原崇【石川高専】、矢野隆【熊本大】	交通騒音の暴露量と高度の睡眠妨害反応との関係	日本音響学会騒音振動研究会 R2.10 (※オンライン開催)
森原崇【石川高専】、Catherine Marquis-Favre (ENTPE)、Francois Ruille (INSA Lyon)、Etienne Parizet (INSA Lyon)、 横島潤紀 【環境情報部】、松本泰尚【埼玉大】	作業活動に及ぼす新幹線鉄道騒音と振動の複合効果に関する実験的検討～フランス在住者による評価～	日本音響学会騒音振動研究会 R2.10 (※オンライン開催)
横島潤紀 【環境情報部】、辻村荘平【茨城大】、森長誠【防衛基盤整備協会】、梅村良樹【社会システム】、山崎徹【神奈川大】	自動車単体騒音に関する住民意識	日本騒音制御工学会秋季研究発表会 R2.11 (※オンライン開催)
森淳一、森長誠【防衛基盤整備協会】、松井孝典【大阪大】、 横島潤紀 【環境情報部】	動体検出と機械学習を組み合わせた航空機追跡システムの開発	日本騒音制御工学会秋季研究発表会 R2.11 (※オンライン開催)
森原崇【石川高専】、C. Marquis-Favre [ENTPE]、F. Ruille【INSA】、E. Parizet【INSA】、 横島潤紀 【環境情報部】、松本泰尚【埼玉大】	新幹線鉄道からの音と振動に対する欧州在住者による評価実験	日本騒音制御工学会秋季研究発表会 R2.11 (※オンライン開催)
山崎徹【神奈川大】、白橋良宏【日産自動車】、山内勝也【九州大】、 横島潤紀 【環境情報部】、辻村荘平【茨城大】	自動車技術会将来の車外騒音検討委員会の概要紹介	日本騒音制御工学会秋季研究発表会 R2.11 (※オンライン開催)
須田直樹【小野測器】、 横島潤紀 【環境情報部】、梅崎良樹【社会システム】、山崎徹【神奈川大】	社会調査における道路交通騒音曝露量の推計	日本騒音制御工学会秋季研究発表会 R2.11 (※オンライン開催)

発表者・連名者【所属】	発表テーマ	学会名・発表年月 (開催場所)
辻村壮平【茨城大】、森長誠【防衛基盤整備協会】、須田直樹【小野測器】、 横島潤紀 【環境情報部】、山崎徹【神奈川大】	道路交通騒音に対するアノイアンスへの非音響要因の個人差に関する検討	日本騒音制御工学会秋季研究発表会 R2.11 (※オンライン開催)
松本泰尚、小枝希【埼玉大】、林健太郎【ベネック振動音響研究所】、森原崇【石川高専】、 横島潤紀 【環境情報部】	鉄道による振動と騒音の同時暴露に対する心理的反応に関する一検討	日本騒音制御工学会秋季研究発表会 R2.11 (※オンライン開催)
林健太郎【ベネック振動音響研究所】、 横島潤紀 【環境情報部】、馬屋原博光【リオン】、富田隆太【日大】	振動感覚に関する調査研究のレビュー	日本騒音制御工学会秋季研究発表会 R2.11 (※オンライン開催)
長谷部勇太 、 武田麻由子 、 菊池宏海 【調査研究部】、白子智康【いであ株】*	環境 DNA 技術を用いた底生動物調査手法確立の取組	環境 DNA 学会第 3 回大会・第 36 回個体群生態学会大会合同大会 R2.11 (※オンライン開催)
横島潤紀 【環境情報部】、森長誠【防衛基盤整備協会】、牧野康一、横山栄、小林知尋、土肥哲也【小林理学研究所】	低周波音による圧迫感・振動感の知覚に関する主観評価実験	日本音響学会騒音振動研究会 R2.11 (※オンライン開催)
長谷部勇太 、 武田麻由子 、 中山駿一 、 菊池宏海 【調査研究部】、白子智康【いであ株】	神奈川県内における環境 DNA を用いたサンショウウオの調査	第 36 回全国環境研究所交流シンポジウム R3.2 (※オンライン開催)
三島聡子 、 小澤憲司 、 中山駿一 、 菊池宏海 、 難波あゆみ 【調査研究部】、片岡智哉、二瓶泰雄【東京理科大】	ごみ集積場におけるプラスチック片の特徴	第 55 回日本水環境学会年会 R3.3 (京都大※オンライン開催)
来栖可奈、日置尚之、島瑞帆、高井則之【日大】、 長谷部勇太 【調査研究部】、柴田峻一郎、江波亮太、堀内蓮【多摩科学技術高校】、増田絢、松本淳【日大】*	ヨシノボリ属魚類 3 種から分離されたナガラシズクムシ <i>Myxobolus nagaraensis</i> における種内変異の検討	令和 3 年度日本魚病学会春季大会 R3.3 (※オンライン開催)

(3) 人材育成

県・市町村環境担当職員研修等を行った。

事業名又は項目	概要
ア 大気水質等担当職員研修	<p>県及び市町村の職員を対象に、研修を行った。</p> <p>① 法令研修 主要な環境保全関係法令の基礎知識、許認可の事務手続き等に関する計17講座の研修を、R2. 7. 7～8. 7まで資料送付による机上研修として行った。受講者延べ116名</p> <p>② 技術研修 水質事故の概要等3講座、アスベスト対策の概要等8講座、騒音・振動及び低周波音の測定について等2講座、計13講座の研修をR2. 8. 3～31まで、R2. 11. 4～12. 2まで、R3. 1. 20～2. 17まで各々資料送付による机上研修として行った。受講者延べ96名</p>
イ 廃棄物対策担当職員研修	<p>県及び廃棄物処理法政令4市の職員を対象に、研修を行った。</p> <p>① 法令研修 廃棄物関係法令の基礎知識、許認可の事務手続き、行政検査の方法等に関する計14講座の研修を、R2. 7. 14～8. 14まで資料送付による机上研修として行った。受講者延べ29名</p> <p>② 技術研修 行政検査における固体の採取時の留意事項に関する講座・実習を、R3. 2. 16～3. 16まで資料送付による机上研修として行った。受講者延べ8名</p>
ウ 環境行政新任リーダー研修	<p>県のリーダー級職員を対象に、資料提供のみ行った。</p> <p>送付日 令和2年5月26日(火) 内容 「環境部の主な業務」ほか 受講者 対象者13名</p>
エ 中堅環境系技術職員スキルアップ研修	<p>「新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた県の基本方針」に基づき、令和2年度は中止。</p>
オ 県・市町村環境学習研修	<p>「新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた県の基本方針」に基づき集合研修は行わず、県及び市町村の環境学習担当職員を対象に、R2. 5. 22(金)に資料送付のみ行った。</p>
カ 市町村環境業務担当職員研修	<p>市町村の環境業務担当職員を対象に、水質調査委託業務管理に役立てるためCOD分析と精度管理に関する講座を、R2. 12. 23～R3. 1. 20まで資料送付による机上研修として行った。受講者延べ9名</p>
キ 研修派遣	<p>環境省環境調査研修所主催研修がコロナ禍により中止</p>

(4) 依頼に基づく職員の派遣

市町村、団体等から要請のあった出前講座等への講師派遣、及び審議会等への委員派遣を行った。

事業	概要
ア 講師派遣	<p>大学・公共機関等の研修会、講習会への講師派遣を行った。6回 受講者数425名 (表3.1.1-3)</p>
イ 出前講座	<p>学校、市民団体等の出前講座への講師派遣を行った。2回 受講者数19名 (表3.1.1-4)</p>
ウ 審議会、委員会等への委員受嘱	<p>市町村の審議会、国の委員会、県の各種協議会等への委員を受嘱した。 <派遣先> ① 市町村の審議会等 ・厚木市環境審議会</p>

事業	概要
	<ul style="list-style-type: none"> ・平塚市環境審議会 ・鎌倉市環境審議会 ・鎌倉市生活環境整備審議会 ・寒川町環境審議会 ・二宮町環境審議会 ・茅ヶ崎市環境審議会 <p>② 国の設置した委員会等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境リスク評価委員会曝露評価分科会(国研)国立環境研究所) ・化学物質環境実態調査分析法開発等検討会議系統別部会(第二部会)((一財)日本環境衛生センター【環境省委託】) ・新幹線鉄道騒音対策に関する検討委員会(株)ニューズ環境設計【環境省委託】) ・将来の車外騒音検討委員会((公社)自動車技術会共同研究センター【環境省委託】) ・嗅覚検査委員会((公社)におい・かおり環境協会【環境省委託】) ・臭気測定認定事業所審査委員会((公社)におい・かおり環境協会【環境省委託】) ・産業廃棄物に含まれる金属等の検定方法に係る精度管理等検討委員会((一社)廃棄物資源循環学会【環境省委託】) ・工場排水試験法に関するJIS開発 工場排水試験法(JIS0102)の体系整備検討分科会((一社)産業環境管理協会【経済産業省委託】) ・道路交通振動検討会(株)エイト日本技術開発【環境省委託】) ・我が国の環境騒音に係るあり方に関する検討会(中央復建コンサルタント株【環境省委託】) <p>③ 県の協議会等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県青少年科学体験活動推進協議会(神奈川県立青少年センター)

表 3.1.1-3 講師派遣

所属	講師	演題等	派遣先(主催機関)	実施日	参加者数
環境科学センター	加藤洋	第 216 期消防職員初任教育「理化学」	神奈川県消防学校	R2. 5. 22～8. 6	209 名
環境情報部	横島 潤紀	騒音・振動の法令	公益社団法人 日本騒音制御工学会	R2. 7. 21	10 名
調査研究部	坂本 広美	神奈川県の取り組む技術課題	横浜国立大大学院	R2. 10. 28	15 名
環境情報部	横島 潤紀 平田 太一	第 1 学年 職業講話	平塚市立大野中学校	R2. 11. 13	31 名
調査研究部	坂本 広美	専門科目「環境ガバナンス論」：神奈川県の沿岸域におけるマイクロプラスチック問題	東京都市大	R2. 12. 23	65 名
調査研究部	難波あゆみ	相模湾沿岸における一般参加によるマイクロプラスチック分布調査	山口県環境保健センター	R3. 1. 23	95 名

表 3.1.1-4 出前講座

所属	講師	講座名	依頼元	実施日	参加者数
調査研究部	三島 聡子	マイクロプラスチック ってなんだろう	桂川・相模川流域協議会、 相模川湘南地域協議会	R2. 10. 24	16 人
調査研究部	五十嵐恵美子 小松 明弘	マイクロプラスチック ってなんだろう	慶應義塾大 吉崎研究室	R3. 3. 1	3 人

(5) 広報及び普及啓発

当センターの事業に関する広報等を行った。

事業名又は項目	概 要
ア 記者発表等	募集案内 1 件及び異臭事案関連 3 件の記者発表・参考資料送付を行った。 <発表事項> ① 河川のモニタリング調査の県民調査員を募集します (R2. 4. 16 (木)) ② 10 月 14 日 (水) に横須賀市消防局庁舎で確認された異臭の分析結果について (R2. 10. 16 (金)) 【会見】 ③ 10 月 15 日 (木) に横須賀市消防局庁舎等で確認された異臭の分析結果について (R2. 10. 22 (木)) ④ 横須賀市内及び三浦市内で確認された異臭の分析結果について (R2. 11. 4 (水))
イ 施設公開等	環境科学センター施設見学、子ども科学探検隊 (県青少年科学体験活動推進協議会)、施設見学 (随時) は「新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた県の基本方針」に基づき中止とした。
ウ イベント参加	コロナ禍により中止
エ 年報の発行	「令和 2 年版 (2020) 年報 第 52 号」を R3. 3 に発行し、当センターウェブサイトに掲載した。
オ インターンシップ学生の受入れ	インターンシップ生として、横浜国立大大学院生 1 名 (バングラディッシュ国籍) を受け入れた。
カ 職場体験の受入れ	コロナ禍により中止

(6) 他機関との連携

県内及び全国の地方公共団体環境研究機関と交流・連携し、調査研究に関する技術の向上を図った。

事業名又は項目	概要
<p>ア 神奈川県市環境研究機関協議会</p>	<p>当センターと横浜市環境科学研究所及び川崎市環境総合研究所で構成する「神奈川県市環境研究機関協議会」において、情報交換や研究成果の合同発表会、研修会を開催した。</p> <p><内容></p> <p>① 定例会 第1回 R2. 6. 5(金) 横浜市環境科学研究所 会議室 第2回 R3. 2. 5(金) オンライン開催</p> <p>② 第44回環境研究合同発表会(再掲) R3. 1. 27(水) オンライン開催 参加者 35人</p> <p>③ 研修会 R3. 3. 9(火) オンライン開催 参加者 27人 講演「気候変動に適應する地域社会づくりに向けて」 東京都市大環境学部環境マネジメント学科教授 馬場健司 氏</p>
<p>イ 全国環境研協議会</p>	<p>全国環境研協議会(地方自治体の設置する環境保全及び公害防止施策に係る試験研究機関で組織)に参画し、機関相互の運営に関わる連絡、情報交換、共同調査研究等を行った。</p> <p><内容></p> <p>① 第49回総会 R3. 2. 1(月) 静岡県環境衛生科学研究所(Webex Meetingsによるウェブ会議)</p> <p>② 研究・発表会等の事業 ・国立環境研究所とのⅡ型共同研究(10課題中4課題に参画) 「植物の環境ストレス影響評価とモニタリングに関する研究」 「光化学オキシダントおよびPM2.5汚染の地域的・気象的要因の解明」 「LC-MS/MSによる分析を通じた生活由来物質のリスク解明に関する研究」 「河川プラスチックごみの排出実態把握と排出抑制対策に資する研究」</p> <p>③ 環境省の施策及び予算に対する要望書の提出</p> <p>④ 酸性雨全国調査への参画</p> <p>⑤ 全国環境研協議会会長賞(再掲) R3. 2. 1(月) 静岡県環境衛生科学研究所(Webex Meetingsによるウェブ会議) 受賞者 坂本広美【調査研究部】</p> <p>また、関東甲信静エリアの16都県市の地方公共団体環境研究所で構成する関東甲信静支部において情報交換等を行った。</p> <p><内容></p> <p>① 支部総会 R2. 12. 17(木) 書面審議</p> <p>② 専門部会 ・大気専門部会 R2. 12. 1(火) 書面開催 ・水質専門部会 R2. 11. 16(月) 書面開催</p>

事業名又は項目	概 要
	<ul style="list-style-type: none"> ・水質専門部会東京湾連絡会 R2. 10. 19(月) 書面開催 ・騒音振動専門部会 R2. 11. 13(金) 書面開催 <p>③ 全国環境研協議会関東甲信静支部長表彰 (再掲) R3. 1. 29(金) 受賞者 加藤陽一【環境情報部】</p>
ウ 神奈川県公害防止推進協議会	<p>横浜市、川崎市及び神奈川県で構成する神奈川県公害防止推進協議会のPM2.5等対策検討部会において、県内の微小粒子状物質の実態と発生源を把握、また光化学オキシダントにかかる調査研究を行うため、共同で試料採取及び分析、解析を行っている。R2年度は、R1年度に実施したアンモニア調査についての解析を実施した。また、オリンピック・パラリンピック実施に伴う社会情勢の変化による大気質変化を把握するため、VOC等調査を実施した（実際は1年延期されたため、前年度調査と位置づけ実施した）。</p> <p><実績> R2年度夏季VOC調査5回試料採取 (VOC60資料、アルデヒド類60資料)</p>
エ 関東地方大気環境対策推進連絡会	<p>関東甲信静地方の1都9県7市で構成する関東地方大気環境対策推進連絡会において、微小粒子状物質の広域的な汚染実態と発生源を把握するため、R1年度の季節別の構成成分の把握や高濃度日を対象とした解析を行った。また、オリンピック・パラリンピック実施に伴う社会情勢の変化による大気質変化を把握するため、より広域的なVOC等調査を実施した（実際は1年延期されたため、前年度調査と位置づけ実施した）。</p>

3. 1. 2 環境学習業務

環境学習講座の開催、環境学習施設の県民利用、環境学習情報の発信等に関する業務を行った。

(1) 環境学習講座の開催

環境問題や環境保全活動に関心のある県民向けに環境学習リーダー養成講座、環境活動講座及びスキルアップ講座を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部中止した。

事業名又は項目	概 要		
ア 環境学習リーダー養成講座	中止		
イ 環境活動講座	中止		
ウ 環境スキルアップ講座	第1回は「新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた県の基本方針」により中止とした。第2回は環境学習リーダーのスキルアップを目的に12月22日(火)にZoomにてオンライン開催した。 <実績> 第1回 中止 第2回 申込者31名、参加者25名		
	開催日	講座のテーマ	講師
	第2回 R2. 12. 22(火)	気候変動と適応策	環境科学センター 環境情報部環境活動推進課 主任技師 田澤 慧

(2) NPO と連携した環境学習事業の実施

特定非営利活動法人神奈川県環境学習リーダー会と共催で例年行っている小学生（高学年）を対象とした夏休み子ども環境体験教室を中止とした。

(3) 環境学習施設利用者支援

環境学習施設及び環境学習用資機材の貸出を行った。

事業名又は項目	概 要		
ア 環境学習施設の貸出	環境学習施設4施設を貸出するとともに、実験指導などの利用者の支援を行った。		
	施設名称	主な貸出先等	施設利用数※
	環境学習室	環境保全団体（自主講座の拠点施設として利用）	31人（6件） 【2人（2件）】
	実習室	環境保全団体（pH、COD等の水質分析や自主講座の拠点施設として利用）	12人（1件） 【0人（0件）】
	※【 】内は、当センター主催講座における件数で内数。		
イ 環境学習用資機材の貸出	環境学習用のビデオ・DVD、環境測定用機器、観察機器等の貸出を行った。 実績 延べ40台（30件）		

(4) 環境学習情報の提供

環境学習のためのホームページを運用し、環境学習に関する情報を発信した。

事業名又は項目	概 要
ア かながわ環境学習ナビ	環境学習講座開催情報、施設利用案内、教材ダウンロード、環境活動人材情報検索等の情報を提供した。アクセス数 33, 356 件 URL https://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/kankyogakushu/index.html

3. 1. 3 神奈川県気候変動適応センター

気候変動適応法に基づく気候変動影響及び気候変動適応に関する情報の収集、整理、分析及び提供並びに技術的助言を行った。

(1) 情報収集・整理

気候変動に関連する公開情報等を収集整理するとともに、夏季の暑さ指数や気温の観測を行った。

事業名又は項目	概要
ア 収集・整理した既存情報	令和2年12月に国が公表した「気候変動影響評価報告書」を参考にして、神奈川県で考えられる各分野における気候変動影響と施策、関連する情報を整理し、神奈川県気候変動適応センター（以下、「県適応C」という。）のホームページに掲載した。
イ 暑さ指数の観測	県内数カ所に日射計や温湿度計を設置し、既存の気象観測データと組み合わせることで、県内の暑さ指数の分布を把握した。
ウ 夏期気温測定	横浜市、川崎市と連携し、県内全域の気温観測によるヒートアイランド現象の実態把握として、小学校の百葉箱での夏期気温測定を行い、県内における夏期気温分布を把握した。

(2) 分析・影響予測

気候変動影響に関する潜在的ニーズ調査を行ったほか、県内の熱中症リスクに関する分析を行った。

事業名又は項目	概要
ア 潜在的ニーズ調査	鎌倉市を中心とする相模湾沿岸域において、気候変動影響に関する潜在的なニーズや課題を明らかにするため、地域の関係者（ステークホルダー）へのヒアリング等による調査を行った。（東京都市大環境学部馬場研究室に調査を委託）
イ 熱中症リスクに関する分析	環境省熱中症予防情報サイト及び消防庁の熱中症情報から県内の暑さ指数と熱中症救急搬送者数のデータを収集し、県内の熱中症発生状況と暑さ指数の傾向について分析を行った。

(3) 情報発信

若年層への気候変動に関する教育プログラムを作成したほか、県民向け講座等の場を活用し、気候変動適応や県適応Cの取組の紹介を行い、気候変動適応の認知度向上を図った。

事業名又は項目	概要						
ア 教育プログラムの作成	気候変動問題に対する若年層の関心や理解を深めるため、主に高等学校の授業での活用を想定した気候変動に関する学習用教材を作成し、「かながわ気候変動WEB」で公開した。						
イ 講座・講演会等での講師	<p>県民向け講座や講演会において、気候変動適応に関する講義を行った。</p> <p>○スキルアップ講座「気候変動と適応策」（再掲）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>会場</th> <th>実施日</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オンライン</td> <td>R2. 12. 22 (火)</td> <td>25人</td> </tr> </tbody> </table>	会場	実施日	参加人数	オンライン	R2. 12. 22 (火)	25人
会場	実施日	参加人数					
オンライン	R2. 12. 22 (火)	25人					